

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年において少人数授業を展開することにより、基礎基本の定着を図ることができた。
- ・外国語教育指導員の活用により、発表活動を定期的に授業に取り入れ、表現力を育むことができた。

(2) 課題

- ・自ら考え、場面に応じた英作文を正確に作るなど、全学年を通して「書くこと」の分野で正答率に差が見られた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	リスニング項目はおおむね目標値を超えているが、記述問題では全問題において基準値に達していない。	/	/
第2学年	リスニングや語形・語法の知識・理解、単語の並べ替えによる英作文は概ね目標値に達した。	全観点で正答率が低く、特にリスニングにおける正答率が著しく低い。	/
第3学年	基礎では目標値を▽6 下回り、活用では▽9 下回った。	正答率は、基礎、活用ともに下がった。	基礎では目標値を上回ったが、活用では▽6 下回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近で簡単な語句を聞いてその意味の理解や、大文字小文字のアルファベットの識別など中学一年生に求められる基本的な知識・技能は身につけている。	聞くこと分野では基準値に達しているが、書くこと分野に関してはおおむね基準値に達していない。	英作文において、正答率こそ高くないが、書こうとする意志は見られた。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語法の知識・理解、単語の並べ替えによる英作文は概ね目標値に達しているが、長文	昨年度目標に掲げた、基本的な動詞を使った語順理解により正答率が上がり、「聞く	「書くこと」の英作文では目標値を概ね下回っており、今後の課題と思われる。

読解について著しく低いことが課題である。	こと」の英文の読み取りの理解も改善が見られた。	
----------------------	-------------------------	--

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語形・語法の知識・理解は、ともに目標値とほぼ同等で、語彙の知識・理解は、やや目標値を下回っている。英作文は単語の並び替えの問題については、目標値を上回っている。	英文の読み取りの問題では正答率が目標値と同等だが、英作文では目標値を大きく下回っている。	全ての項目で目標値を大きく下回っていた。英作文に対する苦手意識がある生徒が多いことがうかがえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークやノートなど、英語系を意識して正しくアルファベットが書けるよう繰り返し訓練していく。	全ての分野に関して、自己表現を広げるような手立てを常日頃から行う。	比較的、聞くこと、話すことが好きなため、英会話を多く取り入れ、生徒の主体的に学習に取り組む態度を養う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な一般動詞を使った表現の反復練習により語形・語法の知識・理解に改善が見られたため、今後も継続したい。	基本的な一般動詞を使った表現の反復練習を続けるとともに、自分自身の実際に伝えたいことを表現できるように練習していく。	生徒自身が、自分の思いや考え、伝えたいことをどのように表現するか学び、共有できる環境づくりに努める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項を理解しているかを確認しながら、新出の単語や文法を定着させていくことに重点を置く。小テストの機会を増やし、生徒の語彙力を増強する。	「書くこと」において条件英作文の課題を授業内に取り入れる。身近な事柄に関する短文から始め、段階的に文数を増やすなど工夫しながら、表現できるように練習する。	教員や ALT, 生徒同士での英語でのやり取りを通して、学んだ単語・文法で自身を表現し伝える機会を増やす。英語を使って表現することに楽しさを感じられるような授業にする。